

沖縄で貴重な経験をしてきました！

大山町・嘉手納町人材育成交流事業

8月1日から4日にかけて、沖縄県嘉手納町で「大山町・嘉手納町人材育成交流事業」が行われました。

これは、生活習慣の異なるお互いの町に児童を派遣し、交流を通じて友情を築き、次世代の人材育成を図ることを目的として、毎年、夏に嘉手納町、冬は大山町を会場に交流事業を行っています。

今回は町内の4小学校から児童16名と引率者3名、さらに竹口町長が交流団に加わりました。

初日は沖縄地上戦の話聞き、因伯の塔に千羽鶴を奉納。その後、平和記念堂、平和記念公園に赴きあらためて平和の大切さを実感しました。



▲戦争の犠牲者への祈り



▲バナナボートに大はしゃぎ！
(ビーチ交流)

2日目以降は鳥取とは異なる文化や自然を体感。特にナビビーチでの海水浴では、民泊家庭のみなさんや教育委員会の方々や遊泳の手伝いやバーベキューの準備をして、交流を盛り上げていただきました。

嘉手納町のみなさんの温かさにつれ、さまざまな事を学ぶことができました。児童らは、「平和学習はもちろん、この体験をこれからの学校生活で活かしたい」と感想を述べていました。次の平成30年1月の嘉手納町から大山町への訪問は、この事業が始まって、ちょうど30回目となります。参加した児童にとって有意義な事業となるよう今後もこの交流を続けていきます。

寄贈本を通じてハンセン病の正しい理解を

大山町立図書館寄贈本記念講演会

大山町立図書館本館では、長い間ハンセン病問題啓発活動に尽力してこられた荒井玲子さん（大山町赤松在住）から、関連本を約200冊寄贈いただいたことを記念して、7月21日に講演会を開きました。

講演会では、荒井さんが活動を始めた経緯や、さまざまな偏見のある中で、ハンセン病患者の方との交流を深めながら活動されてきたこと、県内の啓発活動におけるエピソードなどを、穏やかな口調でわかりやすく話していただき、参加者は皆、引き込まれるように聞き入りました。

特に、元患者の方々が詠まれた短歌や俳句の一字一句に込められた背景や重みを教えていただいたとき、元患者の方々やご家族の悲しみや絶

望はいかばかりかと想像し、胸が痛みました。

参加者からも、「貴重な話だった。地元の本を寄贈いただいて有難いと感じた」「一県民一町民として記憶にとどめておきたい話だった」「差別のない社会構築を共に歩みたいと思った」などの感想がありました。

寄贈に至った思いについて荒井さんは、「書店で購入した本は、ほとんどなく、一冊一冊がいろいろな方々から譲り受けたもので、今でもその方々のことが思い出される大切なものばかり。書物を通じて、差別に苦しんだ元患者たちの気持ちに寄り添ってほしい」と語られました。

大山町立図書館に所蔵していますので、ぜひたくさんの方々にご覧いただきたいと思います。



▲講演会の様子



▲寄贈本の展示